

生態系ネットワークについて

令和7年2月

生態系ネットワークと、その形成により期待される効果

- 生態系ネットワークは、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有する地域を核として、それらを有機的につなぐ取組です。河川は、森林や農地、都市などを連続した空間として結びつける、生態系ネットワークの重要な基軸であり、流域の中でまとまった自然環境を保持している貴重な空間となっています。



生態系ネットワークのイメージ

- 河川管理者、自治体、農林漁業者、NPO、学校、企業などの多様な主体が連携・協働して、河川を基軸とした生態系ネットワークを形成することにより、地域の自然を豊かにするとともに、地域の経済や社会にも効果をもたらすことが期待されます。

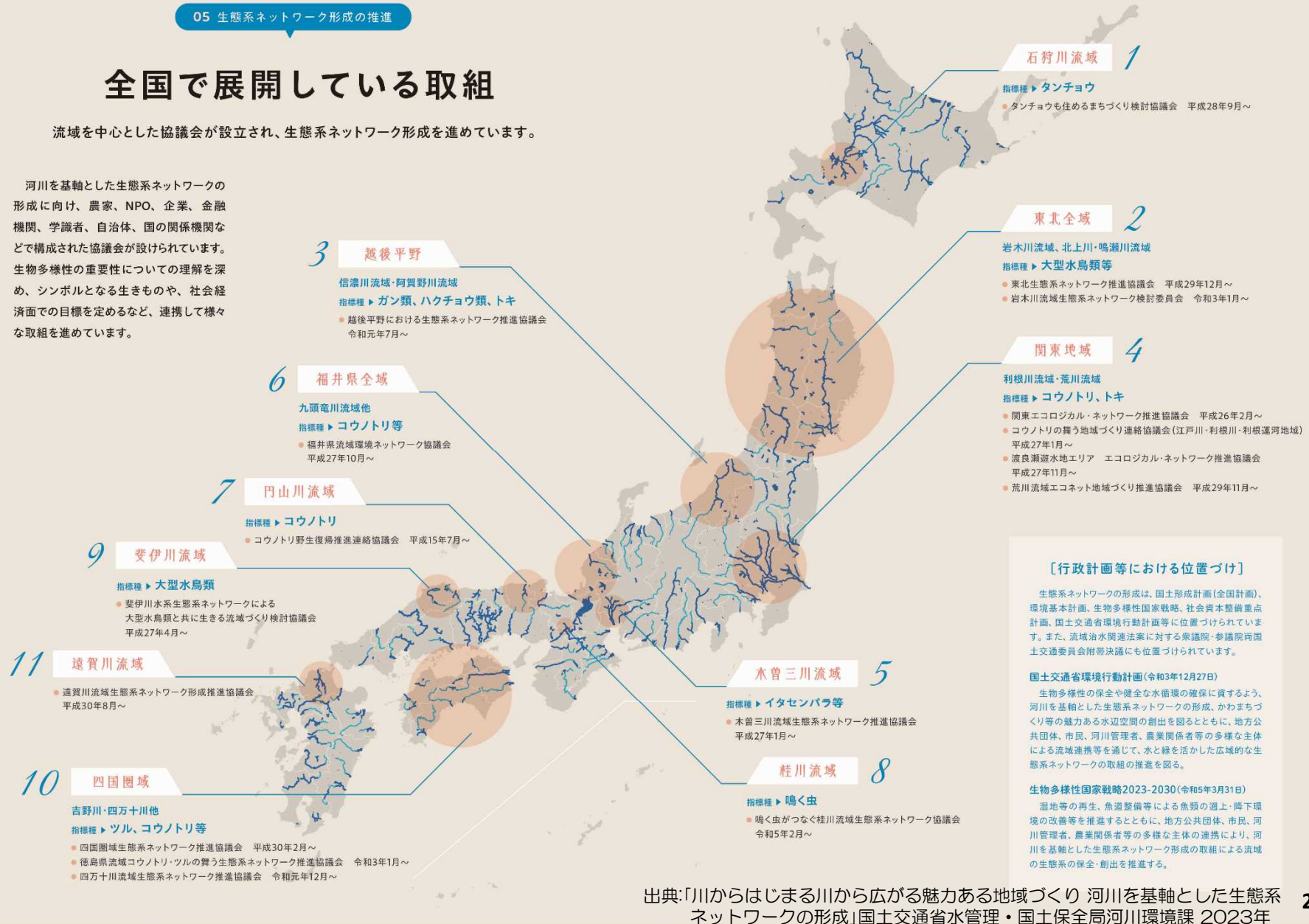
出典:「川からはじまる川から広がる魅力ある地域づくり 河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 2023年

05 生態系ネットワーク形成の推進

全国で展開している取組

流域を中心とした協議会が設立され、生態系ネットワーク形成を進めています。

河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向け、農家、NPO、企業、金融機関、学識者、自治体、国の関係機関などで構成された協議会が設けられています。生物多様性の重要性についての理解を深め、シンボルとなる生きものや、社会経済面での目標を定めるなど、連携して様々な取組を進めています。



〔行政計画等における位置づけ〕

生態系ネットワークの形成は、国土形成計画(全国計画)、環境基本計画、生物多様性国家戦略、社会資本整備重点計画、国土交通省環境行動計画等に位置づけられています。また、流域治水関連法案に対する衆議院・参議院両国土交通委員会附帯決議にも位置づけられています。

国土交通省環境行動計画(令和3年12月27日)

生物多様性の保全や健全な水循環の確保に資するよう、河川を基軸とした生態系ネットワークの形成、かわまちづくり等の魅力ある水辺空間の創出を図るとともに、地方公共団体、市民、河川管理者、農業関係者等の多様な主体による流域連携等を通じて、水と緑を活かした広域的な生態系ネットワークの取組の推進を図る。

生物多様性国家戦略2023-2030(令和5年3月31日)

湿地等の再生、魚道整備等による魚類の遡上・降下環境の改善等を推進するとともに、地方公共団体、市民、河川管理者、農業関係者等の多様な主体の連携により、河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の取組による流域の生態系の保全・創出を推進する。

出典:「川からはじまる川から広がる魅力ある地域づくり 河川を基軸とした生態系ネットワークの形成」国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 2023年

四国での取組の経緯・経過

- 吉野川流域(鳴門市)でコウノトリが2015年から巣づくりを行うようになり、2017年には繁殖に成功して、円山川流域(豊岡市等)に次いで、国内2地域目の野外繁殖地となりました。また、2015年～2016年に300羽程のナベヅル・マナヅルが、四国各地の水辺に飛来して越冬し、国内外より大きな注目を浴びました。
- コウノトリやツル類を活かした「魅力的な四国づくり」を目指して、2018年に「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」が設立され、徳島県鳴門市、阿南市、香川県三豊市、愛媛県西条市、西予市、高知県四万十市の6自治体や企業・団体等が参画しています。2018年には全体構想が策定され、翌2019年に公表されました。
- 吉野川流域、四万十川流域においては、それぞれ協議会・ワーキング等が設立・設置され、吉野川流域ではコウノトリ・ツル類を、四万十川流域ではツル類をそれぞれ指標として、具体的取組が進められています。

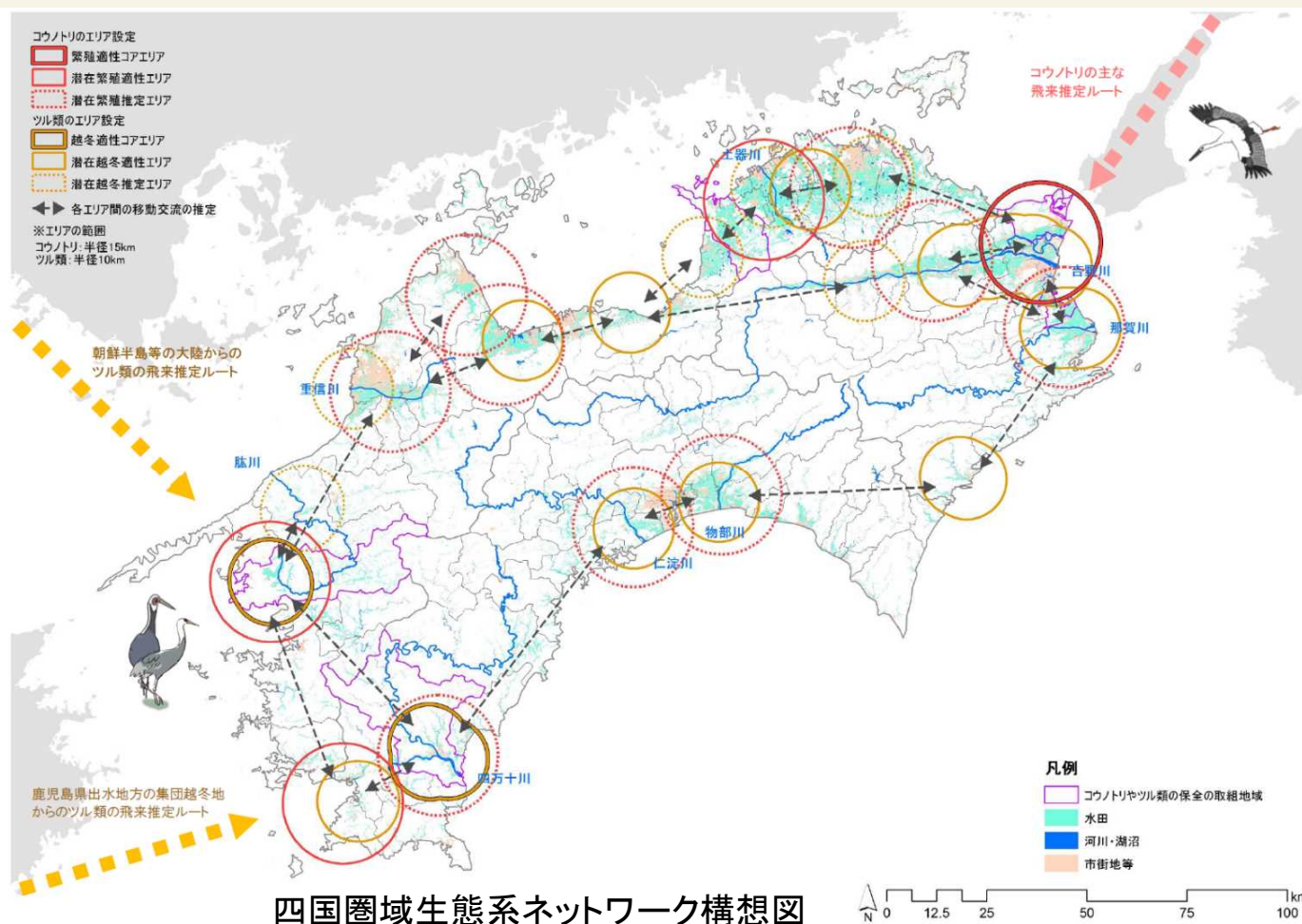
		2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)
圏域／流域の空間スケールに応じた生態系ネットワークの形成	四国圏域	四国圏域の全体構想の検討・策定、圏域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会 ・第2回協議会 全体構想の策定 ・第3回協議会 ・新型コロナウイルス感染症の影響により延期 ・第4回協議会 (書面開催) ・第5回協議会 ・第6回協議会 ・第7回協議会 (予定)							
	徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会 【2021年1月15日発展移行】	全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会 ・第2回協議会 全体構想の策定 ・第3回協議会				全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信 ・第1回協議会 吉野川流域→徳島県全体へ発展移行 ・第2回協議会 (書面開催) ・第3回協議会 ・第4回協議会 ・第5回協議会 (予定)			
	鳴門地区生息環境づくりワーキング 【2018年11月27日設置】		旧吉野川での自然再生によるコウノトリの生息環境づくりの検討 ・第1回～第2回会議 ・第3回～第4回会議 ・第5回～第6回会議				・第7回～第8回会議		
	旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング 【2023年6月6日設置】						旧吉野川の自然再生地の管理運営の検討 ・第1回～第3回会議		
	旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング 【2024年1月31日設置】						旧吉野川の自然再生地の整備・利活用の検討 ・第1回会議 ・第2回会議 (予定)		
	鳴門地区地域・人づくりワーキング 【2019年9月30日設置】			コウノトリ営巣地周辺での地域・人づくりの検討 ・第1回～第2回会議 ・第3回～第4回会議 ・第5回～第6回会議		・第7回～第8回会議	・第9回会議	・第10回～第11回会議 (予定)	
	四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会 【2019年12月25日設立】			四万十川流域での取組状況等の共有・今後の方針の検討 ・第1回協議会 ・第2回協議会 ・第3回協議会		・第4回協議会	・第5回協議会	・第6回協議会 (予定)	
	ワーキング 【2019年6月27日設置】			具体的な取組の検討・実施 ・第1回～第4回会議 ・第5回～第8回会議 ・第9回～第12回会議		・第13回～第15回会議	・第16回～第18回会議	・第19回～第21回会議 (予定)	

四国圏域生態系ネットワーク全体構想（案）

- 平成31年2月4日に開催された「第二回 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」において、「四国圏域生態系ネットワーク全体構想（案）」の策定に関する協議が行われ、承認されました。

四国圏域生態系ネットワーク形成の目的

1. コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生に基づく四国全域における生態系ネットワークの形成
2. コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた四国全域における地域活性化及び経済振興の実現



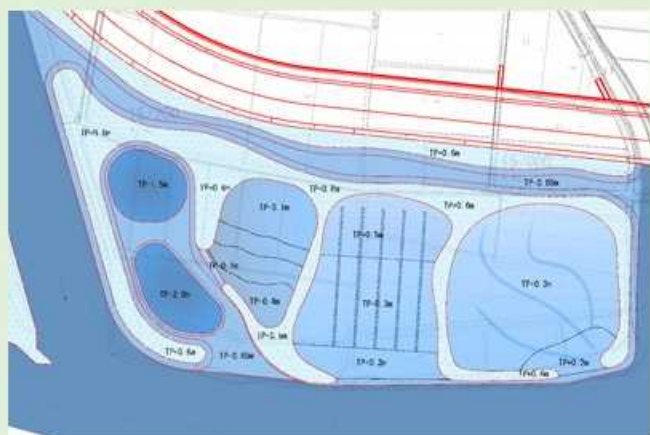
（四国圏域生態系ネットワーク全体構想（案）より引用）

事例紹介（徳島県 吉野川流域）

- ・2017年10月19日に、吉野川流域を対象として「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」が設立されました。
- ・2021年1月15日には、コウノトリ・ツル類が徳島県内に広く飛来していることや、徳島県全域で環境保全への機運が高まっていることから、徳島県内における関連する取組についての情報共有・連携を図ることを目的に、「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」へと発展移行しました。
- ・事業の推進は、該当地域の関係者らからなる「地域ワーキング」が担い、協議会への報告と、専門部会の支援を受ける仕組みが構築されています。
- ・「コウノトリれんこん」やコウノトリのお酒「朝と夕」(ペアの愛称から命名)などの物産品の開発・販売も、生息環境づくりと並行して行われています。

旧吉野川津慈地区での湿地づくり

河口堰水位操作に合わせた湿地水面を創出



自然再生事業の整備により、かつてのコウノトリと人が共生する多様な生態系を有する豊かな自然環境を再生し、地域の多様な主体と連携した生態系ネットワークを形成することで、地域活性化や観光振興に貢献する。

旧吉野川の岸辺の一部を掘削して、『コウノトリ』の採食場所となる湿地やハス田のほか、その場所の環境を代表する生物（若目種）の生息場所（水路・ヨシ原・湿地等）を再生する。

コウノトリ定着への取組み

「コウノトリの定着に向けた取組」

- ・人工巣塔、観察スペースの設置 / ビオトープの整備 / 水田魚道の設置
- ・接近自粛要請看板の設置 / 警備員の配置 / 来訪者用の駐車場の確保 等



令和2年度 四国電力により電線の架け替え工事を実施（人工巣塔化）



ビオトープの整備状況

コウノトリ活動の啓発

- ・とくしま動物園や徳島大学など、令和5年度では6回パネル展を実施
- ・コウノトリれんこんや、コウノトリのお酒など、物産品の開発・販売



事例紹介（北海道 石狩川流域）

- ・石狩川流域の生態系ネットワーク形成を目的に、全体構想の策定、流域の取組に関する共有・拡大、情報発信等に関する包括的な役割を担う「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」が設立されています。
- ・具体的な取組については、地域を代表するシンボル種もしくは重要な生態系ごとの「推進協議会」が設立され、生物多様性の保全・再生、地域振興、グリーンインフラを活かした防災・減災の取組が推進されています。
- ・長沼町は、タンチョウをモチーフとした商品開発への助成を行い、「たんちょうクッキー」などの商品が誕生しています。また、タンチョウの繁殖に至る過程を追ったドキュメンタリー映画「奇跡の子」が制作され、上映により制作費を上回る収益を計上しています。

石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会（R5年度設立）

目的： 多様な主体の連携と協働のもと、健全な生態系ネットワークの形成に取り組み、生物生息環境を保全・再生するとともに、野生生物と地域生活・産業の両立を図り、豊かな自然資本の持続的な活用による地域振興・経済活性化を実現するための方策の検討と取組の推進を目的とする。

委員：学識者、石狩川流域の自治体、関係行政機関、関係団体、企業・NPO等

【参加メリット】

- ・野生生物との共存・地域づくりとの両立方法について、有識者や自治体、団体等と情報共有や人脈形成
- ・新たな知見や先行事例についての情報共有、協議会を通じた情報発信
- ・取組紹介による地域イメージ向上、地域への愛着・誇りの醸成 等



舞鶴遊水地で2020年に、札幌圏では約100年ぶりにタンチョウの繁殖を確認

提供：環境省・一般社団法人タンチョウ研究所



タンチョウの繁殖までを追ったドキュメンタリー映画「奇跡の子」は制作費を上回る収益を計上



たんちょうクッキー

北海道長沼町ではタンチョウをモチーフとした商品開発に対して開発費用の助成を実施し、いくつもの関連商品が誕生



シンボル種もしくは重要な生態系ごとの推進協議会

シンボル種もしくは重要な生態系ごとの推進協議会

シンボル種もしくは重要な生態系ごとの推進協議会

シンボル種

流域内の生態系のつながりや地域性を示す「指標種」をシンボルとして選ぶことで目指すゴールや計画を共有する。

シンボル種の例

